

CWA NEWS



平成25年度交流会 ～今年も多くの方に参加していただきました～



大石副会長



石井副会長



司会の加瀬運営委員

6月1日(土)の定期総会后、37名が参加し交流会が行われました。

加瀬運営委員の司会進行で始まり、最初に大石副会長から、「民間同士の交流は政府機関の交流と違い根が深く、広がりがある」との挨拶がありました。続いて、石井副会長から「国際交流は理屈ではなく、とにかく機会をとらえ、顔を出して、話を聞くことが大切」という挨拶があった後、同副会長の音頭で乾杯となり、各テーブルでは昼食会を兼ねた歓談の輪が広がりました。

昼食後、第二部がスタートです。最初のプログラムは、昨年来葉したウィスコンシン州友好使節団の交流状況の報告です。青木事務局長がスライドを使ってウェルカムパーティーの様子や担当した文化・芸術グループについて報告しました。学校でポメラニアンダンスを披露している様子、生徒と一緒に給食を食べたり、バスケットボールに興じている様子、ホストファミリーとの交流の様子などが紹介されました。次に、Wisconsin-Chiba Inc.グループを担当した森山運営委員長からは、千葉大の植物工場や柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)での見学の様子、サッポロビール千葉工場で団員がとても大切にしていた背広のボタンを失くし、それを案内の女性が探し、届けられて団員が大変感激されたことが紹介されました。次に、女性のつばさグループを担当した大浦運営委員からは、食物アレルギーの団員がいたため全行程で神経を使ったこと、ある団員が持ち歩いていたメモに、“おはよう”“ごちそうさま”“さようなら”“出された食べ物はきれいに食べましょう”という言葉が記されていて感激したことなどが紹介されました。最後に、角田運営委員から、フリーデイに文化・芸術グループのミンディさんと行動を共にし、明治神宮で日馬富士の土俵入りに遭遇したことが披露されました。



交流会の様子

次のプログラムは、ウィスコンシン州出身のALTで現在成田国際高校にいるBrennan Alcottさんと安房高校にいるDavid Pelikanさんによる“我が故郷ウィスコンシン州”の紹介です。スライドを使って都会と自然が共存する魅力満載のウィスコンシン州を紹介していただきました。なお、Brennanさんによると、ウィスコンシン州に行くなら秋がお勧めとのこと。※写真の抜粋を次ページに掲載。

最後のプログラムでは、事務局の笹生運営委員からウィスコンシン州に関するクイズが数問出され、正解者にはCWA会員からご提供のチーバくんフェイスタオルとハンカチセットやキッコーマン(株)からご提供の品を差し上げました。参加者全員満足して散会となりました。

私のふるさと ウィスコンシン州

交流会
パート
2



Brennan
Alcottさん



David
Pelikanさん



マディソンの中心部、上はメンドータ湖、下はモノナ湖



州内には何千もの酪農農場が点在している



夜の州議会議事堂



1万5千以上の湖があるウィスコンシン州は、「水の集まる所」の意味である



ハロウィン



湖に浮かぶ野鳥

Brennanさんからは、故郷ミルウォーキーのおいしい食べ物(チーズや特大のシェークリーム)をはじめ、ビール、熱気あふれるスポーツ(NFLのパッカーズ・MLBのブルワーズ)、サマーフェスト(音楽祭)や8月上旬開催のステートフェアの賑わい、外観がまるでヨットの帆のような美術館などを紹介していただきました。そして、圧巻は湖に浮かぶ野鳥の鳴き声が会場内に響き渡った時、まるでウィスコンシン州の森の中にいるような気持ちになりました。最後に、冬はマイナス30℃以下でとても寒く、黄葉の秋がお勧めとのコメントがありました。

Davidさんからは、豊かな自然と都会の様子が紹介されました。特に夜の州議会議事堂やマディソンの中心部を見渡す大パノラマ、スタンド全体がチームカラーの紅色に染まったウィスコンシン大学フットボールチーム「バジャーズ」の本拠地(収容人員約8万人)、ハロウィンで群衆に埋め尽くされたマディソンの通り、秋の黄葉に囲まれた州議会議事堂周辺などハットする写真もあり、『ウィスコンシンを満喫した』と思える密度の濃い時間でした。

今回は著作権の関係で、ごく一部の写真を紹介しています。

行ってみよう ウィスコンシン州 vol.6



キッコーマンUSA R&Dラボラトリー社
佐藤 拓也さん

寒くて長い冬が終わった後は、楽しいイベントが盛りだくさんのウィスコンシン。どこまでも青く澄んだ気持ちの良い空の下で、太陽を浴びながら短い夏を思いっきり楽しむのです。

今回はそんなウィスコンシンの人気イベントを中心にをご紹介します。

●World's Largest Brat Fest

ウィスコンシン州の州都マディソンでは、毎年5月下旬のメモリアルデーの週末に“World's Largest Brat Fest (世界最大のソーセージ祭)”が催されます。イベントの趣旨は、「みんなでホットドッグを食べて、自己保有記録でもある世界記録をさらに更新しよう」というもの。今までの最高記録は2010年に達成された209,376食。世界記録を更新するためにもソーセージを焼くのは人海戦術。グリルがずらっと並んでソーセージを焼いている光景は圧巻です。

ホットドッグには玉ねぎやザワークラフトなどの薬味をたっぷりとのせ、さらにケチャップやマスタードをかけて食べます。会場には何とソーセージの形をした車まで登場です。この車、“wienermobile”とい

って、ウィスコンシン州内では走っている姿を極稀に目にすることがあります。見かけた時はとてもラッキーな気分でした。会場でホットドッグと並んで人気なのが、コーン。コーンは皮に包まれたままの状態で焼き、バターをたっぷりつけて食べるのがウィスコンシン流。コーンの甘さとバター塩味がマッチして、美味しさ抜群です!



Wienermobile

●Harley Davidson



Harley Davidson

オートバイメーカー、Harley Davidsonはウィスコンシンが本拠地。同社は商都ミルウォーキーに1903年に発祥、現在も世界中に多くの熱心なファンがいます。夏になるとHarley Davidsonのイベントが州内各地で催され、数百台ものグループによる集団ツーリングが目玉イベントです。ツーリングの集団が休憩のために立ち寄る街では、ダウンタウンはずらりと整列したHarley Davidsonで埋め尽くされて圧巻です。出発の際にはエンジンが一斉にかかり、さながら雷鳴が轟いているようです。

●Taliesin

帝国ホテルの設計もしたことでも有名な建築家、Frank Lloyd Wrightが設計し、弟子たちと共に建設した設計工房や建築群がある“Taliesin”は州都マディソンから車で東に1時間の小さな町、Spring Greenにあります。彼の有名な作品や工房を一目見ようと、世界中の建築家やその卵達がTaliesinを訪れ、偉大な建築家の息吹を感じています。広大な敷地には、Wrightの作品が点在し、それらを巡るバスツアーが人気となっています。

また、初夏のSpring Greenでは“Spring Green Art Festival”が催されます。ウィスコンシン州の芸術家がブースをずらりと連ねて自らの作品を販売するというイベントです。芸術家達と直接話をしながら、気に入った作品を手に取り、購入することができるということで多くの観光客で賑わいます。絵画、陶芸、彫刻そして木工品などバラエティーに富んだ芸術作品がブースに並びます。

まだまだ紹介し切れませんが、この他にもビールやチーズのお祭り、ヨーロッパからの移民の子孫達によって催される各国の伝統行事など楽しいイベントや美しい観光地がいっぱいのウィスコンシン。百聞は一見にしかず、皆様のお越しをお待ちしています。



Taliesin

国際フェスタCHIBAにCWAが出展 ～ホットドッグの販売で姉妹交流をアピール～



売り込みにやる気満々の精鋭たち



ようこそCWAブースへ!



準備万端、お客さんが早くこないかしら



美味しくてほっぺが落ちそう



お客さんの数、こんなもんじゃないですよ

5月19日(日)に神田外語大学を会場に国際フェスタCHIBAが開催されました。24団体が出展した今年の国際フェスタCHIBAは、神田外語大学CUP(学生ボランティア団体)が主催する幕張チャリティ・フリーマーケット(通称「幕チャリ」)と同時開催です。当日は好天に恵まれ、広場は、所狭しと広げられたバザー用品を目当てに、学生や家族連れで大賑わい。学内の広場に面したテントと1号館に出展した国際交流団体のブースにも大勢の方々が訪れました。

千葉ウイコンシン協会のブースでは、ウイコンシン州のソーセージの美味しさをアピールすることで、千葉県とウイコンシン州の姉妹交流に関心を持ってもらおうと、ジョンソンヴィル・ジャパン合同会社にご協力をいただき、ソーセージを挟んだホットドッグ販売で来場者を誘う一方で、CWA活動のパネル展示と情報誌等の配布でCWAの活動を紹介しました。

ホットドッグは、予想通り美味しさと食べ応えで評判を呼び、準備した約200本が1時過ぎには完売という盛況ぶり。折しも、政府が進めている「KAKEHASHI Project(北米地域と青少年交流事業)」の一環として会場を訪れたウイコンシン大学オシユコシユ校のArden Robert HeimさんとStephanie Lynn Jansenさんが仲間入りし、CWAの法被を着てメガホン片手に呼び込みに大活躍。お二人が強力な助っ人になってくれたことで、国際交流イベントの雰囲気をもっと盛り上げました。

今年の国際フェスタは、初夏の爽やかさとホットドッグが追い風となり、スタッフも一つにまとまり大成功です。イベントを終えた皆の顔は、充実感と達成感に輝いていました。

(追記)ホットドッグが本格的に売れ始めたのは11時半過ぎですが、その時は写真を撮るところではありませんでした。

★ ウィスコンシン大学オシュコシュ校学生が知事を表敬訪問

政府が進めている北米地域との青少年交流事業の一環として来日したウィスコンシン大学オシュコシュ校の学生等25人が、5月21日に森田健作千葉県知事を表敬訪問しました。

千葉県庁の多目的ホールに笑顔で現れた森田知事は、子どもの頃からのアメリカへの憧れや3年前に訪問したウィスコンシン州ドイル知事(当時)との思い出を交え、歓迎のスピーチを行いました。また、房総半島の自然や食べ物を是非味わってほしいと千葉県をアピール。学生たちは、飾らない知事のお人柄にふれて緊張もとれ、笑顔で質問に答えていました。



また、学生の代表のダン・スキナーさん達3人は、姉妹県である千葉県に来て嬉しかったこと、千葉で出会った沢山の方々が皆親切でフレンドリーだったことを家族や友達に話したいと日本語でスピーチを行い、知事を驚かせました。

全員で記念撮影をした後、CWAを代表して赤田靖英副会長が、1990年の姉妹提携調印に取材記者として同行した思い出などを披露。両県州の若者達がアメリカと日本、ウィスコンシン州と千葉県のつながりを深めるため、これから大いに交流して欲しいと期待を語り、セレモニーは終了しました。

全員で記念撮影をした後、CWAを代表して赤田靖英副会長が、1990年の姉妹提携調印に取材記者として同行した思い出などを披露。両県州の若者達がアメリカと日本、ウィスコンシン州と千葉県のつながりを深めるため、これから大いに交流して欲しいと期待を語り、セレモニーは終了しました。

★ 平成25年度理事会

5月21日(火)、京成ホテルミラマール(千葉市中央区)において、平成25年度理事会を開催しました。顧問(代理)2名、理事9名、監事1名が出席、特別顧問の森田健作知事に参加いただきました。

理事会の冒頭に茂木友三郎会長から「協会設立10年目を迎え、この間千葉とウィスコンシンの交流が年々盛んになっているということは大変すばらしい」との挨拶がありました。続いて森田健作知事からは、ウィスコンシン州立大学オシュコシュ校の学生等25名の県庁訪問(5月21日(火)実施)のエピソードを披露し、「ウィスコンシン州は、言うならば私たちの大切な友人である」との挨拶がありました。



理事会では、24年度事業報告及び収入・支出決算、25年度事業計画(案)及び収入・支出予算(案)等の議題が審議され、総会に付議されることになりました。また、理事会の承諾を経て、長谷川孝夫鴨川市長が顧問へ就任されました。

★ 平成25年度定期総会

6月1日(土)、ポートプラザちば(千葉市)において、平成25年度定期総会が開催され、26名の正会員が出席しました(委任状提出は58通)。

冒頭、高木副会長から、当協会は設立して、10年目を迎え、交流を一層充実させていく旨挨拶されました。

その後、会員の鹿島春海さんを議長として、24年度の事業報告及び収入・支出決算、25年度の事業計画(案)及び収入・支出予算(案)、理事・監事の選任(案)等について審議が行われ、全て承認されました。



